

サウロのダマスコ伝道

使徒言行録 Act9・19b~25

2019. 1. 27

熊取教会

5 ¹⁹ サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、²⁰ すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。²¹ これを聞いた人々は皆、非常に驚いて言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」²² しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。

²³ かなりの日数がたって、ユダヤ人はサウロを殺そうとたくらんだが、²⁴ この陰謀はサウロの知るところとなった。しかし、ユダヤ人は彼を殺そうと、昼も夜も町の門で見張っていた。²⁵ そこで、サウロの弟子たちは、夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁づたいにつり降ろした。

【神から生まれた者】

ヨハネ第一の手紙五章にこう記されています。

15 一ヨハ 5:1 イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。

ナザレのイエスが「メシア」であると、信じる人は、・・・つまり、十字架で死んで下さったあのナザレのイエス様が、聖書に預言されている、あの、メシア、であると信じる人は皆、神から生まれた者だ、と。

先週から、サウロの回心と、それに続いて起きた出来事を学んでいます。今日の後半は「ダマスコ脱出物語」ですが、そこは来週にします。サウロは、今日のテキストの 22 節で、22 「イエスがメシアである」と論証しています。つまり、先ほどのヨハネの手紙に従えば、「サウロはダマスコで新しく神から生まれた」ということです。

【サウロの回心とダマスコ伝道】

25 それまで、サウロは教会の迫害者でした。教会の者たちをみなしょつ引いて、大祭司に引き渡し、死刑にするときには、賛成した。その彼が、エルサレムからシリアのダマスコまで旅をした。ダマスコの会堂に、イエスの教えを信じているものたちがいたからでした。サウロは、彼らを捕まえてエルサレムに連行するためでかけました。その彼が、ダマスコの町に近づいたとき、決定的な経験をします。彼はイエス様の呼びかけを聞き、そのあと、ダマスコで洗礼を受け、そこで「イエスがメシアである」と人々に伝えました。25 節には「サウルの弟子たち」と記されています。人々は彼の語ることを聞いて洗礼を受け、サウルの弟子となりました。それは彼の伝道の実りです。

【ダマスコ途上の出来事】

35 サウロの回心の出来事は彼の心の中に始まったのではなく、サウロの外から訪れました。出来事の流れを先週のテキストからざっと概観します。 9 章 3 節から。 使 9:3 サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。 ⁴ サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。⁵ 「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。⁶ 起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」⁷ 同行していた人たちは、声は聞こえても、

だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。⁸ サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。

突然天からの光に打たれて、地に倒れ、目が見えなくなった。その時、彼だけが聞いた声。その声が、「わたしはあなたが迫害しているイエスである」と告げた。サウロの心の動きは、テキストには何も書かれていません。それは驚きと激しい恐れであったでありましょう。「晴天の霹靂」といいます。霹靂、とは雷鳴、あるいは落雷のこと。晴れ上がった空からいきなり雷が落ちてくる。驚くべき突然の出来事を「晴天の霹靂」という。実際にそのような自然現象があるそうではありますが、ダマスコへの途上でサウロに起きた出来事は、まさに、そのような出来事でした。サウロは、これまで、「イエスの復活」を断固否定してきました。それは愚かで受け入れがたい主張です。「イエスの復活」を否定するそのサウロに、死んでいるはずの、イエス様本人の声が聞こえた。「なぜ私を迫害するのか」と。サウロは立ち上がったけれども、目が見えなくなっていた。突然の失明。このとき、サウロがどれほど驚き恐れおののいたか。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。⁹ サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

食事抜きの日というの長いものです。まして、目が見えず、飲み食いしない三日間。その間彼は祈り、懺悔し、赦しを乞うたことでありましょう。そこに、アナニアという弟子が来て、彼の目を癒し、洗礼を授けました。彼は赦されました。癒しがその徴です。彼は死んでいたような状態から復活させられ、見えなかったものが見えるようにされました。洗礼を受け、聖霊に満たされ、食事を取って元気を取り戻しました。霊も心も体も、癒され力づけられ、新たな歩みを始めました。

【サウロの信仰告白】

¹⁹ サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、²⁰ すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。

数日の間ダマスコの弟子たちと一緒にいた。そして、そのあとすぐ、ダマスコにあるあちこちの会堂「シナゴーク」で、イエス様について、「この人こそ神の子である」と人々に伝えました。「この人」とは、彼が迫害してきた方、ダマスコ途上でお会いした方。暗闇に過ごした三日間、彼と共にいて下さったイエス様です。サウロを赦し、彼に新しい使命をお与えになったメシア。彼はイエス様のみ声を聞いた、イエス様と一緒に過ごした。そして彼は聖霊によって理解しました、「この方こそ神の子である」と。つまり、「イエスはメシアである」と。まことに、彼は目が見えるようにされました。

【エチオピアの高官の信仰告白】

ここで、もうひとつの洗礼物語を思い出してください。使徒言行録8章。フィリポが天使に告げられて、ガザへの道を通っていると、エチオピアの高官が馬車に乗ってエルサレムから下って行くのを見た。彼は馬車の中でイザヤ書を朗読していた。「苦難の僕」の箇所。フィリポは馬車に追いつき、高官の求めに応じて、馬車に乗り、そのイザヤ書を解き明かしました。「ここに書かれているこの僕こそ、ナザレのイエスだ」と。

この高官は聖書にあるメシアを求め、イエス様に行きつきました。そして、洗礼をうけて、イエス様を経験しました。聖書にあるメシアは、ナザレのイエスだと知った。それが彼の信仰の道筋です。「私を救って下さるのはどなたであろうか、それはイエス様です」。エチオピアの高官は救いを求めてイエス様に行き着きました。

【サウロの信仰告白】

一方、サウロの信仰告白の道筋は逆です。「イエス様というお方はメシアだったのだ」彼は聖書をよく知っていました。メシアの預言も知っていた。けれども、自分が迫害しているナザレのイエスがメシアであるとは思ってもみなかった。その彼に、ダマスコ途上で、イエス様の方から、ご自分をお示しになりました。サウロは、この出来事を通して、イエス様と決定的な交わりを持ちました。自分が今までずっと、敵として滅ぼそうとしてきたこの方、ナザレのイエスこそ、メシアなのだ、そう気づいた。「この方がメシアだったのだ」と。

【信仰告白の道筋】

信仰告白の道筋には二種類あるように思います。一つは、サウロのように、聖書は知っていたが、イエス様を知らなかった。そのサウロが、イエス様に触れて頂いて、「ああ、知らなかった、このお方がメシアだったのだ」そう確信した。これはいわば、祈りをとおして、イエス様に出会い、救われる。という道筋でありましょう。「この方はメシア」という信仰告白。

もう一つは、エチオピアの高官のように、聖書を通してメシアに出会うという道筋です。彼は異邦人であり、宦官であったがために、エルサレム神殿での礼拝からは遠ざけられていました。その彼が、救われることを求めて聖書を読んでいた。その聖書の中でメシアであるイエスにであらう。「ああ、ここに書いてある、この苦難の僕とは」イエスというお方なのだ理解する。これはつまり、旧約聖書を読んで、メシアは十字架と復活のイエス様なのだ、と気づく。「聖書のここに預言されているメシアはイエス様だ！」と気づく信仰告白です。これは、救いを神の摂理と考えることに通じます。神様があらかじめ、深いご計画によって、わたしのためにメシアをお遣わしになっておられた。という信仰告白。そうして、神の愛を聖書の中に見出す。

どちらも大切です。旧約聖書を読んで、「ここに記されたメシアはイエス様だ」と確信することと、祈りを通して、イエス様に出会い、この方こそ私の救い主であると信じること。どちらも必要であり、どちらも大切です。聖書は神の愛の手紙。祈りは神の愛を呼吸することです。

【サウロの伝道】

19 サウロは 20 節 20 すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。 21 これを聞いた人々は皆、非常に驚いて言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」 22 しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。

パウロの、予想外の行動に、ダマスコにいたユダヤ人たちは、非常におどろきます。それは当然です。ダマスコの諸会堂に、キリスト者たちを捕まえに来たサウロが、「イエスはメシアだ」と主張すれば、驚くのは当たり前です。ところがサウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証した。「論証する」と訳されているギリシャ語は、集めて組み立てる、というのが元の意味であり、証拠を組み合わせて証明することです。パウロは、聖書に書かれていることをあれこれ組み合わせて考え、この、十字架で死んだイエスこそメシアだった、と証明した。それを聞いて、ダマスコのユダヤ人たちはうろたえました。「一体どうなっているんだ」と混乱しました。しかし、このパウロの伝道を通して、イエス様の出来事が人々に大胆に語られて、証明されて、多くの人々

に受け入れられていきました。

【教会生活】

5 こうして、サウロはダマスコで洗礼を受けて、すぐに、「イエスはメシアである」と人々に証を
始めました。ここで、冒頭に申しました「ヨハネの第一の手紙5章1節」をもう一度読みます。
こうあります 一ヨハ 5:1 イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。
更にこう続いています。 そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。

10 サウロのように、イエスはメシアであると信じる人は、神から生まれたのだと。そして、生んで
下さった方を愛する人は、皆、その方から生まれた者をも愛します。とヨハネは記しています。私
たちは同じ神から生まれ、同じ神から聖霊をいただきました。それゆえに私たちは神を愛し、神か
ら生まれた信仰の兄弟姉妹を「愛する」とヨハネは言います。兄弟姉妹を「愛せよ」との命令では
ありません。自分の心を調べればわかることです。神を愛する者は、神から生まれた者を愛する。
15 それはヨハネの経験であり、真理です。サウロはこうして、新しく生まれ、イエス様の信仰の兄弟
姉妹たちの中に加えられ、ダマスコで最初の伝道をはじめました。

まことに、神のなさることは麗しく偉大です。聖書は神の愛を記した物語です。